

水産

第 2 4 号

32, 12, 28,

目 次

卷 頭 言	西 田 稔	
鹿兒島湾の潮流観測報告	高 橋 淳 雄	} 1
	肥 後 道 隆	
	茶 円 正 明	
東支那海さば漁況	徳 留 陽一郎	29
東支那海まぐろ、かじき延縄漁況	漁業部	33
奄 美 短 信	大 島 分 場	37
各 部 日 記	編 集 部	38
分 場 日 記	大 島 分 場	42
編 集 後 記	編 集 部	

鹿兒島県水産試験場

昭和30年9月に22号台風で主幹建物の2階建本館が全壊してから早いもので満2年3ヶ月になる。残つた附属建物を修理して多大な不便をしのびながら、しかも直後に実施された機織の根本的改革と建物及び施設の復興と云う二重の難関を突破しつつも、通常業務は従来以上に効果的に遂行した場員の苦勞は並々でない。鉄筋コンクリート2階建の本館と殆んど新築に変わる附属建物の移築工事や内部設備の工事も漸くこの程完成し、去る21日落成式典と20日から22日まで3日間の記念水産展示会が行われた。

こゝまでに到つたことは、単なる復旧を排して改良復興、新規建設をやるゝとする我々の希望に於いて、敷地の決定、建物の規模と様式、設備などについて格別の助言と協力をいたゞいたところの水試復興対策委員会（県執行部と議会、鹿大水産学部、水産団体などの代表者で組織された知事の諮問機関）その委員各位の属するそれぞれの機関、設計、監督、施行関係者の理解と援助や努力の賜である。

日光は当らず、風通しは悪く、水道の口もなし、窓を開けば終日砂ボコリが舞込む、およそ研究に居住にも不適當なところから、各部屋とも採光通風に申分なく、現代様式のコンクリート建本館と充分とは云えないまでも一応今日の地方水試としてはあまり他にヒケを取らぬ設備のところを移つたことは今後の仕事の上にプラスするものがあるであらう。

更に特記したいことは本県では各試験研究機関に研究職の制度が適用されることになり、4月1日に逆上つて発令を見たことである。業績次第ではあろうが、これで當場技術職員は役付に關係なく待遇の頭打ちを見ない道が開かれたことになり、従つて往年の如く本庁その他との間にクライマックス的又は糊上げ的人事が行われずに済むか、少くとも最小限度に止

め得ると期待する。

もちろん当场はいわゆる象牙の塔に閉ちこもつた研究のための研究、試験のための試験を主とする機関であつてはならない。しかし世界水産額に於て日本にクビスを接して続くソ連、中共、アメリカにグルリと取巻かれ、しかもこれが科学技術を重視する一流国であるから、我が水産界が其の日暮し、非科学的在り方を続けていては落伍し、シメ出されることは火を見るより明らかである。試験研究は国の仕事に任せ、応用と指導だけやれば良い時期でなく、総力を能率的に發揮して取組むべきであろう。我々の対象は判らぬことだらけである。1年や2年あるいは数年で判ることは片鱗であり例外である。従つて腰を落付けてシツクリ仕事を続けねばなるまい。そうすると国家的貧困と、あきつばい国民性から、いろいろ周囲から文句が出るだろう。しかし今日、明日食えないからと云つて場当りのことだけやつていては、あさつては、来年は一層食えなくなるものである。場合によつては自分の代でダメなら続く研究者の代で成果をあげると云う覚悟でやる必要がある。榮転、昇給、昇格などと名利にとらわれず、建物で云えば土台、防波堤で云えば棄て石の立場にならねばなるまい。しかしながら関係業界や管理者側の人々には、その反対のこと即ち断えざる且充分なる理解と優遇を望みたい。土台の弱い建物、棄石を簡略にした防波堤が、どんな運命をたどるかを考えていただきたい。

幸にして本場は、現在の本県財政事情のもとでは最大限と思われる理解と協力を得て、施設も職員待遇の道も前述の方向に一歩をふみ出したものと思う。今後は各職員の自覚と努力、並に周囲の財政的、精神的理解と協力のマツチする程度によることではあるが、従来に優る業績が挙ることを期待する次第である。

鹿兒島湾潮流観測報告

高橋 彦 雄
肥後 道 隆
茶田 正 明

(I) 観 測

鹿兒島大学水産学部と鹿兒島県水産試験場と協同で鹿兒島湾内の潮流観測を行つたのでその結果を報告する。

期 日 昭和31年11月14日より23日迄

観測船 しらさぎ（鹿兒島県漁業取締船、船長松田光雄）。

観測員 高橋彦雄、茶田正明、浜本金吾、檜木且元、水田武彦、永田裕章、工藤芳郎、伊勢義昭、（以上8名鹿兒島大学）。

肥後道隆（以上1名水産試験場）。

観測点 第1図に示す6点（いずれも100m以浅の点）。

各点で4又は5層の流向流速を観測した。

観測器具 エクマンメルツ流速計。

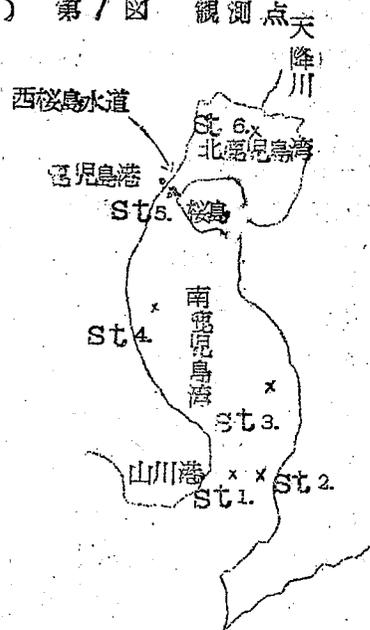
観測値 第1表の通り。（末尾記載） 第1図 観測点

(II) 調査結果

(1) 満干潮時刻と潮流の関係

鹿兒島湾内各部には特定の名称なく記述に不便であるので、以下においては桜島西方の狭い水道を仮に西桜島水道と呼ぶこととし、鹿兒島湾を西桜島水道によつて2分して北側の部分を北鹿兒島湾と名づけて、北湾と略称することとし、南側の部分を南鹿兒島湾と名づけて南湾と略称することとする。

鹿兒島港第3棧橋に於て鹿兒島



気象台の潮位観測が行はれているので、潮流観測期間中の観測結果を第2表に収載する。但し途中欠測時は潮沙表から得たものである。又表中には鹿児島港に於ける太陰南中時刻を附記してある。

第2表 鹿児島港潮沙表（鹿児島地方気象台観測）

年月日	満潮		干潮		満潮		干潮		太陰南中時刻
	潮位(m)	時刻	潮位(m)	時刻	潮位(m)	時刻	潮位(m)	時刻	
3/1/14	262	0434	154	1025	286	1646	122	2258	2057
15	232	0510	107	1110	252	1710	60	2345	2142
16	250	0555	—	—	263	1740	101	1205	2232
17	265	0635	390	025	322	1860	132	1231	2328
18	331	0708	550	0443	261	1900	138	1302	—
19	335	0756	550	1413	231	1923	146	1408	0023
20	326	0812	460	2152	322	2000	149	1414	0122
21	334	0900	420	2483	292	2052	158	1506	0222
22	320	0939	560	335	303	2125	159	1552	0321
23	298	1026	650	421	280	2249	156	1636	0418

(註) ()内は潮沙表によるもの

鹿児島湾を長さ55km（桜島以南のみとした長さ）、深さ一定150mのく形とすると自由振動の最長週期は $\frac{4L}{\sqrt{gh}} = 5.05$ 時間（Lは湾の長さ、hは深さ、gは重力加速度）となり、従つて太陰半日週期12.42時間との比は $\frac{5.05}{12.42} = 0.41$ となり、湾内に筋のない共働潮汐と見做される。一方潮沙表によれば、ふもと及び山川港の潮時の鹿児島港の潮時からの遅れは夫々約0分、一分に過ぎない。実際に検潮柱を立てて目測による観測を、山川港において1/14日/4時より15日6時迄、及び天降川口附近で22日/3時より22日/8時迄実施した所、かゝる簡単な測定法では両地点共に、第2表に示した鹿児島港の潮時との差は見出し得なかつた。又観測された山川港の潮差は152cmであつて同期間の鹿児島港のそれは164cmである。これらの観測結果は上記の推論と合致する。

以上のことから、こゝに取扱う問題に関する限りは、鹿児島湾内に於ては、太陰南中時より約6～8時間後に湾内到着

所同時に満潮 となると見做すことが出来る。

そこで湾内到处の満干潮時刻は第2表で与えられると見做し、これを第1表と比較することによつて下記の事象を見出すことができる。

一般に上げ潮は北流、下げ潮は南流で、満干潮時頃に憩流するが、満干潮時より早い場合と遅い場合とある。但し湾口では、西側は満潮前と干潮後に、東側は満潮後と干潮前に憩流する。即ち西側は下げ潮時間長く、東側は上げ潮時間が長い。南湾の中央部では、西側は殆んど常に南流で、東側は下層は殆んど常に北流である。

第2図に落潮流を示す。実線は観測流で点線は水の連続性に基ついた推定流である。但し観測層の深さが観測点によつて多少相異しているので、観測値は最も近い層の図に記入してある。(以下の図に於ても同様)。一般に全湾南流であり、西桜島水道では下層の流速が上層より大となつて居り、又湾口では西側が東側より流速大である。しかし北湾では5m、10m層で時計廻り環流をなしており、40m、70m層では環流は判然としない。又40m、70m層では南湾中央部以南にも小環流があつて、東側で北流の部分がある。

第3図に漲潮流を示す。一般に北流であり、西桜島水道では上層より下層で流速大であり、湾口では東側が西側より流速大である。南湾中央部は環流をなし、西側に南流部分がある。5m、10m層ではSt4、5間(桜島南西方)に発散があり、従つて湧昇の存在を示している。St5の北には収斂があり、これは沈降と湾奥への満潮に向つての推積を意味する。北湾は反時計環流をなしている。

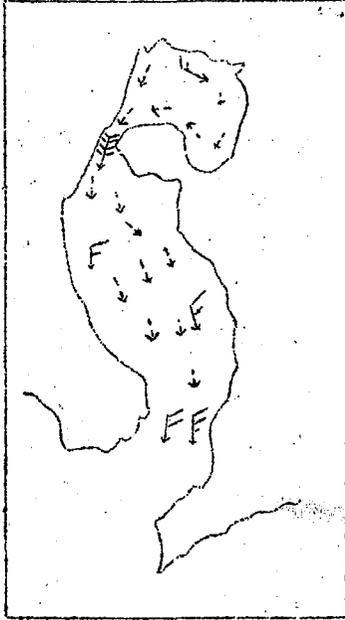
(2) 半日週期潮流と1日週期潮流

鹿兒島港に於ける太陰南中時刻を〇時として第1表の観測値を調和分折した結果は第3表の如くであり、これによつて描いた潮流だ円を第4図に示す。図から得られた潮流だ円の

第2圖-a

落潮流

100m/sec 5m層



第2圖-b

落潮流

10m層



第2圖-c

落潮流

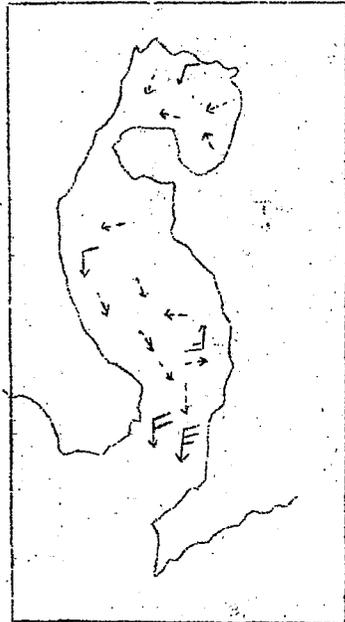
40m層



第2圖-d

落潮流

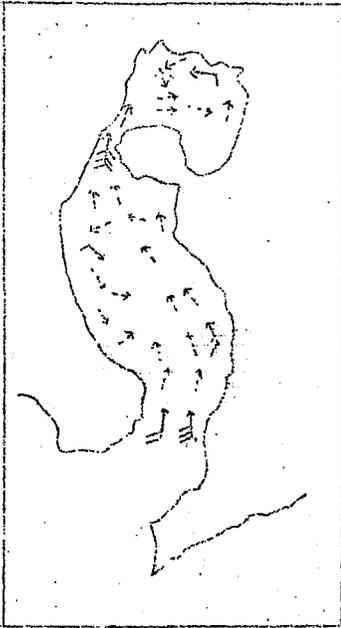
70m層



第 3 圖 - a

漲潮流
5 m 層

10 m/sec



第 3 圖 - b

漲潮流
10 m 層



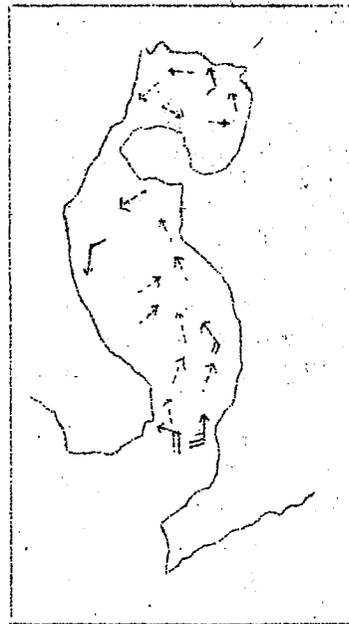
第 3 圖 - c

漲潮流
40 m 層



第 3 圖 - d

漲潮流
70 m 層



要素を第4表に示してある。最大潮流の時刻は太陰南中時を○時とした太陰時で示してある。但しSt / は観測が / 4 時間で中止されているので除いてある。潮流は円の廻転方向は時計廻りと反時計廻りの両方があり、干渉の効果を多分に示している。

第3表 調和常数

観測点	観測層 (m)	東 分				
		U	U	U	U	U
2	5	+2.75	2.21	2.28--5.2	1.00	2.14--4.7
	10	+2.97	0.40	2.49--5.6	1.25	1.70--2.6
	40	-0.08	4.30	7--4.8	4.16	1.42--5.2
	80	+1.79	6.09	1.26--4.9	8.40	9.2--0.7
3	5	-0.92	1.34	2.65--1.3	5.16	2.59--2.9
	10	-0.96	5.18	3.47--5.6	6.26	2.81--1.1
	40	-2.00	4.30	2.46--5.7	4.77	1.74--4.5
	70	-5.71	4.24	5.0--3.8	7.82	3.01--4.0
4	5	+2.33	2.84	1.20--4.5	4.37	1.71--1.6
	10	+0.42	2.40	1.29--4.6	3.84	1.90--1.5
	40	-3.50	5.02	1--0.3	2.23	2.76--4.8
	60	-5.21	1.07	1.99--1.3	8.63	2.50--4.3
5	5	-3.92	0.38	1.11--3.0	3.053	9.7--0.1
	10	-6.63	9.21	1.26--5.2	2.3.06	1.00--3.7
	20	+3.08	3.20	1.13--3.1	5.68	9.0--2.0
	30	+2.25	8.53	9.8--0.7	6.14	2.54--1.7
6	5	+4.54	0.69	2.37--5.4	1.3.05	2.74--3.3
	10	+2.79	4.49	2.85--0.6	1.1.97	2.86--5.1
	40	-2.46	1.28	2.50--4.3	9.25	3.16--5.4
	70	-5.33	3.36	1.8--4.1	3.44	1.17--1.6

(註) 東分 $u = U + U \cos(t-U) + U \cos(2t-U)$

北分 $v = V + V \cos(t-V) + V \cos(2t-V)$

= 2 1太陰日

観測点	観測層 (m)	北 分				
		V	V	V	V	V
2	5	+5.71	5.01	92-10	29.15	127-35
	10	+3.25	6.22	87-43	27.36	127-26
	40	+7.59	4.56	150-02	28.14	120-43
	80	+3.38	4.15	125-37	22.40	136-45
3	5	-1.21	11.30	77-01	8.28	125-47
	10	-1.38	11.76	85-21	7.17	127-39
	40	+9.88	3.96	149-11	8.14	133-21
	70	+4.21	10.11	179-26	11.40	186-16
4	5	-10.50	6.14	77-28	7.79	86-34
	10	-9.33	3.95	105-02	7.51	78-41
	40	-0.17	1.77	211-40	6.72	95-37
	60	-3.21	4.19	139-40	6.23	182-13
5	5	-6.92	12.63	103-10	63.05	104-11
	10	+0.42	17.28	99-42	68.70	113-57
	20	+4.75	15.13	99-31	71.53	109-01
	30	+14.08	18.04	69-48	68.43	106-46
6	5	-4.71	3.91	301-43	5.45	107-49
	10	+1.88	2.71	335-42	2.42	352-46
	40	-3.04	4.36	310-19	1.00	193-53
	70	+1.83	7.81	122-33	7.75	141-43

半日週期潮流は、St 5 が最も優勢であり、St 2 がそれに次ぎ、これらの点では潮流の大勢は半日週期潮流で決定される。しかしその他の点では半日週期潮流は小となつて1日週期潮流と同程度であり、更に1日週期潮流の方が却つて大きい場合がある。半日週期潮流の流速は大體に於て各点とも太陰南中時より約4時間後に起つており、流速は半日週期潮流の最も大きいSt 5 では約 $70 \frac{\text{cm}}{\text{sec}}$ である。

昭和5年3月に春風丸（参考文献参照）によつて行はれた潮流観測結果によれば、今回の観測で半日週期潮流の卓越しているSt 2 附近で、1日週期潮流と半日週期潮流が同程度で

あり、今回の観測で1日週期潮流の稍顕著なSt4付近では、半日週期潮流に比して1日週期潮流が断然優勢を占めている。春風丸の観測は日潮不等大なる小潮の前後に行われており、今回の観測結果との相違は日潮不等の相異、従つて日、月の赤緯の相異によるものと見做すことが出来る。又、湾内全部の潮汐が殆んど同じ型式であるにも拘らず、半日週期潮流の卓越する点と1日週期潮流の卓越する点とがあることに注目すべきである。

潮流だ円の深さによる変化を見ると、St4の他、半日週期潮流の最大潮流時刻が深さと共に遅れている。しかしSt2の半日週期潮流に於て、摩擦の影響とも見られる様な性格（長軸方向の時計廻り、最大潮流の減少、長短軸比の減少）がある他は、摩擦の影響と考えられる様な特徴は見られない。海底傾斜の急なSt3、4では海底附近で却つて最大潮流は増しており、海底が浅くて両側の深いSt5では断面積小なる水道への押込み効果が現れ、最大潮流は深さに対してあまり変わらず、長短軸比も深さに対して不規則に変化している。

(3) 恒 流

調和分析結果から得られた恒流は第4表に示してある。これによつて第5図が描かれている。図にはSt1は第1表の実測値と水鏡性^{の速}とに基づいた推定流が記入してある。

St1、4（湾口西側及び南湾中央部西側）は各層共ほぼ北流である。その他の観測点では上層と下層がほぼ逆になつており、St3、5（南湾中央部東側及び西桜島水道）では上層南流で下層北流であり、St6（北湾の北端附近）では上層東流下層西流となつている。従つて、St2、3間には上層収斂があり、St5間には下層に発散があり、St5、6間には上層に発散、下層に収斂がある。

以上の事実から下記の如き流動が考えられる。湾外から流入してSt2を通過した高密度の外洋水はSt3の南の収斂で

第4圖 a

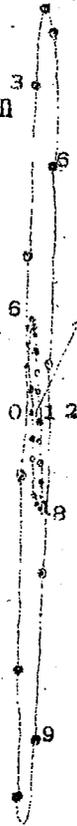
st 2

10.0m/sec

5 m



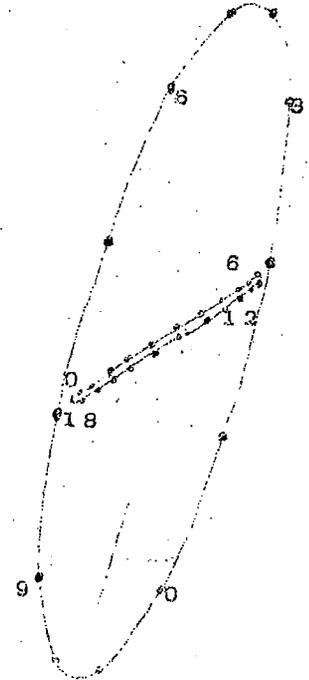
10 m



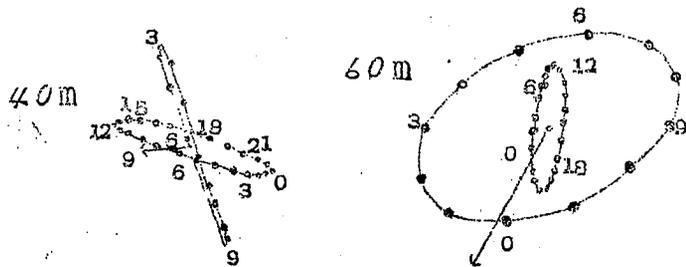
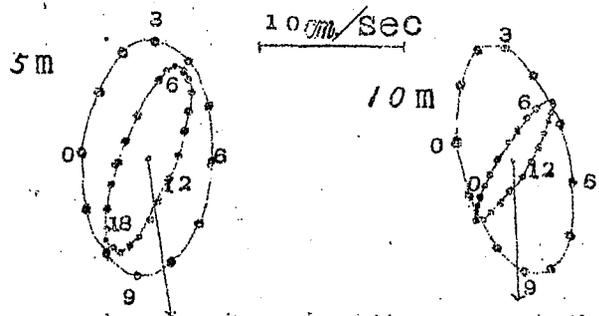
40 m



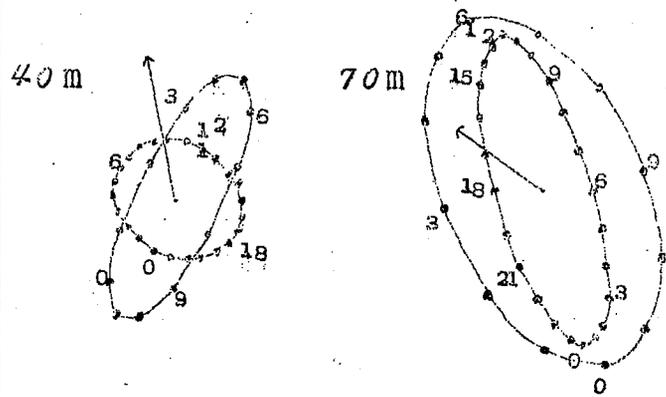
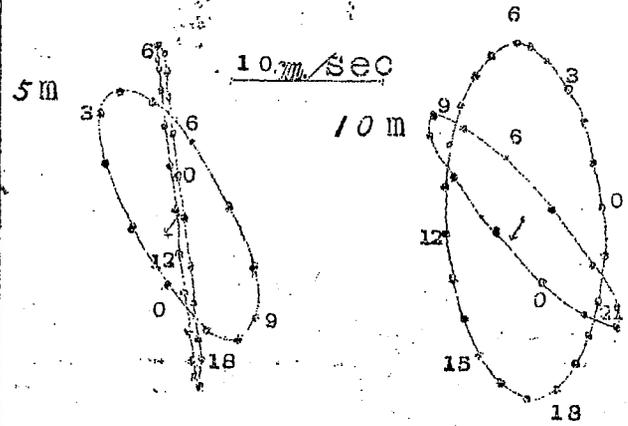
80 m



第4図 C
st. 4



第4図 D
st. 3



第4圖 d
st 5

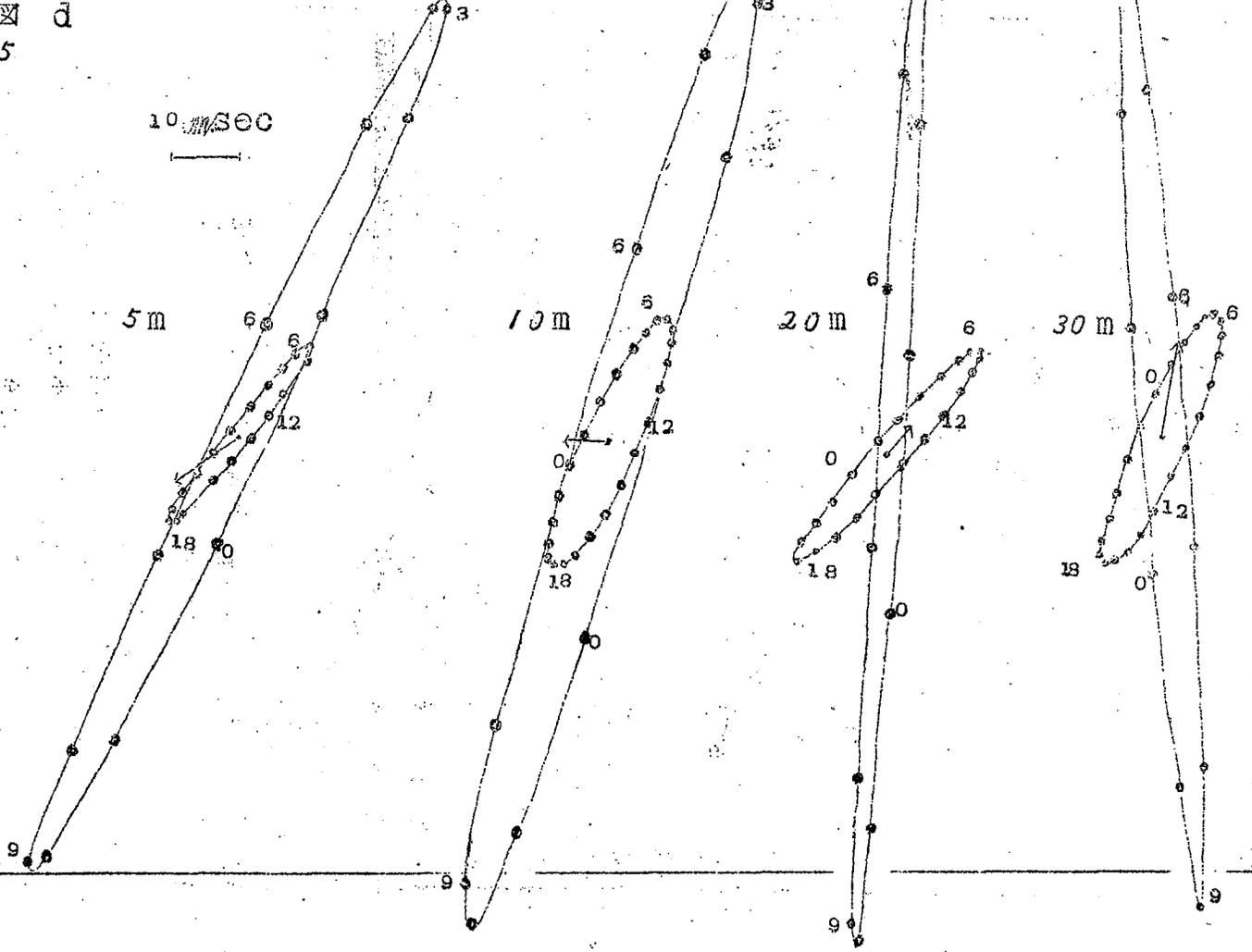
10 $\frac{mm}{SEC}$

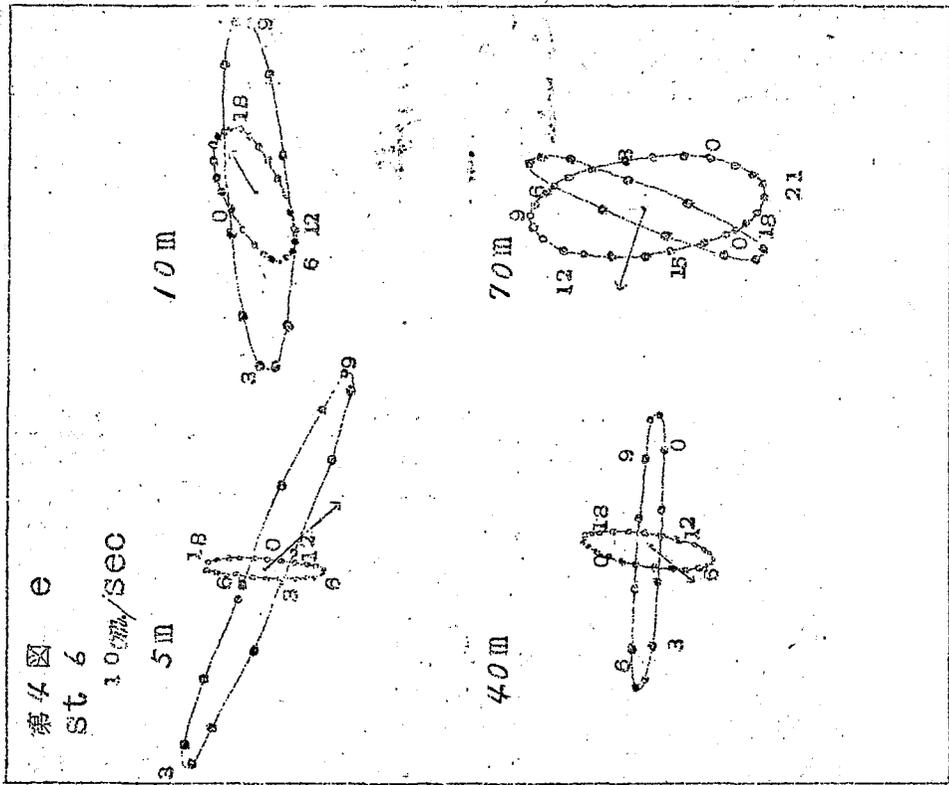
5 m

10 m

20 m

30 m





で沈降し、湾の東側下層を北流して St. 4、5 間で 2 分し、一方は西側を南流して湾外へ向い、一方は北流して西縦島水道の海底をはい上り、浅い海底を越えて北湾に向う。北湾へ入つたこの流入水は、湾奥の低密度の水の下層を反時計廻りして西北部で湧昇発散し、時計廻りして上層を流出する。一方河川からの淡水を多分に混じた湾奥の低密度の表層水は、上層を南流して西側を湾外に向う。湾口に於ける東側の北流と西側の南流とは、湾外の流動との連続性を欠く様に見えるが、しかし恒流の大きさが潮流に比して小であり、且つ漲潮時には湾口全体が北流し落潮時には湾口全体が南流し、それらの差が恒流として現れている事を考慮すれば矛盾は解消する。

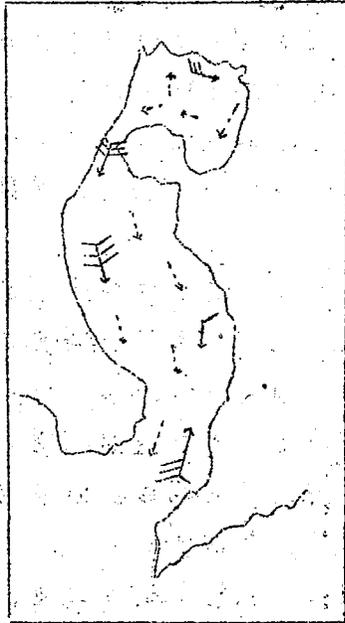
上記の如く恒流は垂直循環を海水密度の垂直分布に大いに支配される故、季節的に相当な変動のあることが予期される。

観測点はすべて100m以浅の場所のみであつて、東湾北湾共に中央部の100m以深の層の潮流についての資料がない。垂直安定度の増大する夏期には、中央部海盆の海水は、上層の流動と過動粘性によつて多少の流動はあるにしても大体に於て停滞に近いものと考へられるが、垂直循環が深層に達する季節に最深部の海が如何なる流動をするかについては、次の調査が必要である。

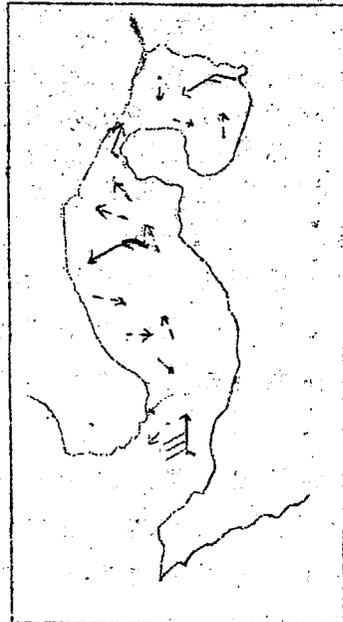
第4表 潮流だ円と恒流

観測点	半日週				日週				恒流					
	最大潮流		長短軸比		最大潮流		長短軸比		迴轉方向		迴轉方向		流速	
	時刻	流速	時刻	流速	時刻	流速	時刻	流速	時	計	時	計		
1	5	4.0	0.2	8.8	2.8	8.8	2.8	8.8	時	計	時	計	2.7	6.5
	10	4.0	2.2	7.0	3.8	6.6	3.1	1.0	"	"	"	"	2.5	7.0
	40	4.0	8.2	3.3	1.8	3.0	3.0	1.1	"	"	反時	計	3.5	7.5
	80	4.5	1.6	2.3	2.4	4.1	7.5	3.7	反時	計	時	計	2.8	4.0
3	5	3.7	3.3	1.9	2.2	2.7	2.7	2.7	時	計	反時	計	2.1	1.5
	10	3.7	3.1	1.7	9.2	4.6	1.8	2.3	"	"	"	"	2.1	1.7
	40	4.8	2.7	8.8	3.1	3.1	1.1	3.3	"	"	時	計	3.4	1.0
	70	5.8	3.5	1.2	3.1	1.9	0.5	3.3	"	"	反時	計	3.0	7.1
4	5	3.0	5	7.7	1.8	1.8	3.8	3.8	時	計	時	計	1.6	10.8
	10	2.5	3.4	6	7.8	2.2	4.5	4.5	"	"	"	"	1.7	9.5
	40	3.0	3.4	2	7.0	3.5	6.9	6.9	反時	計	"	"	2.6	3.5
	80	1.6	2.4	2	9.1	1.7	4.2	4.7	時	計	"	"	2.0	10.8
5	5	3.3	2.6	3.7	2.0	2.8	3.7	3.7	反時	計	時	計	2.3	12.1
	10	3.8	1.8	7.1	1.4	1.4	5.3	5.3	"	"	"	"	2.7	6.2
	20	3.3	4.7	1.0	3.9	4	8.9	8.9	"	"	"	"	3.7	5.6
	80	3.6	3.5	5.6	7.2	2.1	5.5	5.5	時	計	"	"	9.1	14.1
6	5	3.2	2.9	3.1	4.0	1.7	4.0	6.7	"	"	反時	計	1.3	6.8
	10	3.7	2.6	4.1	1.8	6.2	2.7	2.7	反時	計	"	"	5.8	3.5
	40	4.5	2.7	4	9.2	1.3	4.3	3.6	時	計	"	"	2.1	3.9
	70	5.0	2.2	8.3	6.4	6.4	7.8	2.4	反時	計	"	"	2.9	5.3

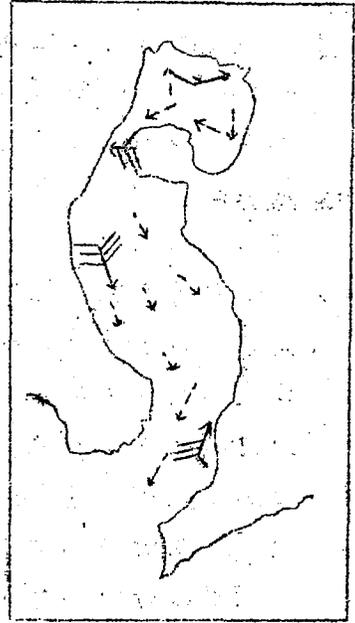
第5圖-a
恒流
2cm/sec 5m層



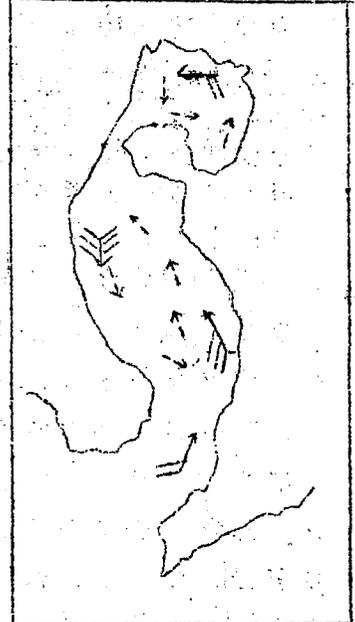
第5圖-c
恒流 40m層



第5圖-b
恒流
10m層



第5圖-d
恒流 70m層



(4) 要 約

昭和31年11月に鹿児島湾内6点で潮流観測を行い、主としてその結果から、下記の如き実状を見出した。

1. 一般に漲潮流は北流、落潮流は南流で憩流は満干潮時頃であるが、満干潮時より早い場合と遅い場合とある。湾口東側は漲潮流の時間長く、西側は落潮流の時間が長く、南湾中央部では西側は殆んど常に南流で、東側の下層は殆んど常に北流である。
2. 湾内潮汐は全域同一型式だが潮流型式は場所によつて相異している。半日週期潮流は、西桜島水道で最も優勢で、最大潮流約70 $\frac{cm}{sec}$ (半日週期潮流のみの値)に達し、湾口がそれに次ぎ、その他の点では1日週期潮流と同程度である。半日週期潮流と1日週期潮流とのこの優劣関係は、太陰、太陽の赤緯によつても相違する。
3. 観測の行われたすべての点(すべて100m以浅)に於て潮流だ円の大きさは、深さに対してあまり変化せず、海底附近で却つて大きい場合もある、しかし半日週期潮流の最大潮流の起時は一般に深さと共に遅れている。
4. 恒流は大体に於て、南湾では東側は北流、西側は南流であり、下層は北流、上層は南流である。西桜島水道も下層は北流上層は南流である。北湾の恒流は下層反時計廻り上層時計廻りと考へられる。これらの循環を伴わねばならない。
5. 垂直循環は垂直安定定度の季節変化に応じて変動すべきであるから、湾内の海水流動にも季節変化が予期される。
6. 湾の中央部の100m以深の海盆内の流動については将来の調査が必要である。

本調査は鹿児島県水産試験場西田稔場長、同上野茂漁業部長、鹿児島県庁縮盛正一郎漁政課長の御配慮と松田光雄しらさぎ船長の御協力によつて遂行することができた。又鹿児島海上保安部藤井正之水路課長の御好意により多数の予備器具

を擧行することが出来。念測を最少限度に止めることが出来た。
 鹿尾島地方气象台今並船台長からは未発表の観測資料の御提
 供を受けた。又米國水路局山本六郎氏は観測の遂行に關し有
 益なる御助言を寄せられた。こゝに記して感謝の意を表する。

参考文献

鹿尾島湾池田湖観測報告

海洋時報第5巻 昭和8年

第1表 潮流観測値

station 1 (水深82m)

月日	時刻	観測層 (m)	流 向	流 速	天 気	風 向	風 速	気 温
11. 15	11—02	5	185	23.7	曇	SSW	4.4	19.1
	11—12	10	92	22.7				
	11—54	20	5	20.4				
	12—04	40	17	17.7				
	13—21	5	12	18.0				
	13—29	10	39	27.3				
	13—39	20	331	19.6				
	13—50	40	97	29.3				
	14—00	60	275	24.2	曇	WNW	6.3	18.2
	14—17	5	17	22.1				
	14—27	10	17	23.6				
	14—38	20	13	25.7				
	14—48	40	27	26.2				
	15—50	60	0	14.4				
	15—25	5	11	23.7				
	15—32	10	11	23.7				
15—40	20	18	23.7					
15—50	40	33	22.1					
16—00	60	33	19.6	曇	NNW	5.4	17.9	
16—33	5	2	16.0					
16—40	10	348	15.4					
16—49	20	348	13.4					
16—57	40	45	13.4					
17—03	60	182	24.2					

月日	時刻	観測層 (m)	流向 (degree)	流速 cm/sec	天気	風向 風速 cm/sec	気温 (C)			
11. 15	17-30	5	135	19.0						
	17-38	10	203	17.5						
	17-47	20	190	22.1						
	18-05	40	176	17.5						
	18-15	60	179	20.1						
	18-30	5	196	20.6				曇	NNW 2.2	16.1
	18-38	10	207	21.6						
	18-50	20	191	22.1						
	19-10	40	203	21.6						
	19-30	60	178	21.6						
	19-39	5	190	27.8						
	19-47	10	195	37.6						
	19-58	20	198	18.0						
	20-10	40	198	29.8						
	22-22	60	180	27.3						
	20-48	5	190	17.0				曇	NW 4.6	15.4
	20-54	10	197	32.9						
	21-03	20	194	23.7						
	22-10	40	232	31.1						
	23-17	60	255	16.6						
	23-27	5	151	22.2						
	23-25	10	209	19.9						
	23-45	20	185	20.0						
	23-55	40	17	17.2						
00-05	60	340	20.4							
11. 16	00-50	5	50	24.8	曇	NW 8.3	13.8			
	00-58	10	29	17.6						
	01-06	40	356	25.3						
	01-17	60	332	9.8						
station 2 (水深 5 m)										
11. 17	08-22	5	171	13.4	晴	NW 4.2	11.2			
	08-29	10	158	12.8						
	08-39	40	205	11.8						
	08-48	80	55	4.1						
	09-03	5	165	17.5						
	09-11	10	170	17.5						
	09-19	40	175	14.4						
	09-29	80	5	3.1						
	10-15	5	170	17.0	晴	NE 4.2	11.9			
	10-22	10	170	16.5						
	10-30	40	200	9.8						
	10-41	80	172	13.9						
	11-03	5	178	11.3						
	11-11	10	150	9.3						
	11-20	40	275	5.7						
	11-29	80	192	16.5						

月日	時刻	観測層 (m)	流向 (degree)	流速 cm/sec	天気	風向	風速 m/sec	気温 °C
11. 17	12-00	5	105	5.7	晴	NNE	4.0	14.4
	12-05	10	65	4.6				
	12-13	40	339	19.0				
	12-25	80	30	8.7				
	13-00	5	12	18.0				
	13-41	10	17	17.0				
	13-50	40	357	29.3				
	13-59	80	23	18.0				
	14-40	5	00	25.7	晴	ENE	3.0	16.0
	14-46	10	1	23.7				
	14-56	40	356	36.5				
	15-05	80	11	18.0				
	15-19	5	10	29.3				
	15-27	10	358	30.9				
	15-34	40	0	33.4				
	15-43	80	11	20.6				
	16-13	5	10	24.7	晴	ENE	3.0	16.1
	16-20	10	12	25.7				
	16-28	40	13	26.2				
	16-39	80	12	17.0				
	17-00	5	10	23.7				
	17-04	10	11	22.6				
	17-16	40	5	26.8				
	17-24	80	20	22.6				
	17-58	5	17	13.9	晴	ENE	2.8	14.2
	18-03	10	55	7.2				
	18-16	40	25	8.7				
	18-25	80	295	7.2				
	19-02	5	125	17.0				
	19-11	10	145	12.8				
	19-19	40	163	17.0				
	19-29	80	265	13.4				
	20-26	5	177	19.6	晴	ENE	3.6	13.4
	20-32	10	180	24.7				
	20-40	40	167	30.4				
	20-50	80	176	22.6				
	21-05	5	185	26.2				
	21-15	10	178	24.2				
	21-26	40	188	26.2				
	21-36	80	191	30.9				
	22-12	5	179	19.6	曇	ENE	4.0	13.2
	22-26	10	167	20.6				
	22-34	40	200	17.0				
	22-46	80	206	27.8				
	23-00	5	195	17.0				
	23-11	10	181	11.8				
	23-18	40	—	1.5				
	23-29	80	177	17.5				

月日	時刻	観測層 (m)	流向 (degree)	流速 (cm/sec)	天気	風向	風速 (m/sec)	気温 (°C)				
11. 18	00-00	5	179	8.7	曇	ENE	4.6	13.1				
	00-10	10	—	1.0								
	00-18	40	35	1.5								
	00-28	80	—	1.5								
	01-05	5	12	14.9								
	01-13	10	3	18.6								
	01-21	40	17	19.0								
	01-31	80	47	16.0								
	02-19	5	5	30.9					曇	ENE	5.5	13.0
	02-27	10	4	32.4								
	02-35	40	20	36.0								
	02-44	80	12	29.3								
	03-03	5	10	35.0								
	03-11	10	9	34.0								
	03-20	40	16	32								
	03-29	80	24	34.0								
	04-18	5	355	39.6	晴	ENE	3.6	13.3				
	04-25	10	4	32.4								
	04-34	40	10	31.9								
	04-44	80	2	29.3								
	05-08	5	2	39.6								
	05-15	10	9	34.5								
	05-24	40	5	30.9								
	05-32	80	6	25.2								
	06-01	5	16	25.2					晴	ENE	4.2	13.9
	06-10	10	10	23.2								
	06-32	40	21	13.9								
	06-43	80	120	7.2								
	07-04	5	5	10.8								
	07-10	10	345	11.8								
	07-16	40	298	9.9								
07-22	80	165	6.7									
08-11	5	165	12.8	晴	ENE	5.0	14.6					
08-25	10	197	5.1									
08-40	40	215	13.9									
08-45	80	140	6.7									
Station 3 (水深80m)												
11. 18	11-10	5	153	35.0	曇	E	5.2	16.3				
	11-18	10	167	27.3								
	11-25	40	341	20.6								
	11-35	80	323	25.2								
	11-55	5	156	24.7								
	12-05	10	155	24.2								
	12-12	40	43	21.6								
	12-19	80	237	12.4								
	13-02	5	175	7.7	曇	E	5.2	16.1				
	13-10	10	231	12.4								
	13-22	40	5	11.3								
	13-30	80	—	2.1								

月日	時刻	水深 (M)	流向 (dir. sec)	流速 (m/sec)	天候	風向	風速 (m/sec)	波高 (M)
11. 18	14-22	5	175	18.0				
	14-29	10	175	2.6				
	14-32	40	175	18.5				
	14-47	70	305	25.4				
	15-00	5	235	7.7	曇	SE	5.4	16.1
	15-08	10	260	8.2				
	15-16	40	26	21.6				
	15-27	70	305	29.6				
	16-22	5	265	7.2				
	16-26	10	125	10.8				
	16-40	40	175	5.1				
	16-48	70	315	27.3				
	17-13	5	230	6.7	曇	SE	5.9	16.7
	17-20	10	215	4.6				
	17-27	40	—	2.6				
	17-36	70	—	3.6				
	18-00	5	21	12.8				
	18-08	10	152	17.5				
	18-15	40	58	10.8				
	18-25	70	305	16.3				
	19-08	5	158	11.3	雨	NE	2.4	16.6
	19-13	10	180	9.8				
	19-30	40	315	7.7				
	19-40	70	15	4.1				
20-25	5	168	14.4					
20-33	10	167	13.0					
20-40	40	5	1.5					
20-49	70	—	0.5					
21-09	5	161	9.6	曇	NE	0.9	15.9	
21-46	10	35	1.0					
23-18	5	120	12.4	曇	NE	2.8	15.7	
23-35	10	117	14.1					
2-43	40	—	1.0					
23-52	70	—	0.5					
11. 19	00-32	5	2	12.4				
	00-47	10	285	6.7				
	01-00	40	—	1.0				
	01-10	70	—	2.1				
	01-33	5	305	10.3				
	01-57	10	—	2.6				
	02-06	40	—	1.5				
	02-20	70	—	1.0				
	03-02	5	315	9.1	曇	NE	3.4	16.5
	03-12	10	305	10.4				
	03-25	40	315	12.9				
	03-34	70	215	17.1				

月日	時刻	観測層 (m)	流向 (degree)	流速 m/sec	天気風向	風速 m/sec	気温 (°C)	
11. 19	04-30	5	327	19.3				
	04-38	10	335	21.9				
	04-55	40	352	23.7				
	05-20	70	337	24.7				
	06-30	5	10	16.9	曇	NE	3.3	16.2
	06-40	10	9	12.6				
	06-47	40	2	21.8				
	06-53	70	336	12.2				
	07-15	5	17	7.3				
	07-23	10	17	8.3				
	07-31	40	6	11.0				
	07-42	70	359	22.3				
	08-14	5	331	6.2	晴	SE	3.4	16.6
	08-22	10	359	6.1				
	08-30	40	4	15.6				
	08-40	70	352	13.3				
	09-02	5	15	1.4				
	09-10	10	5	1.2				
	09-17	40	344	11.0				
	09-27	70	11	20.2				
	10-17	5	250	5.3	晴	SE	4.4	17.3
	10-25	10	-	1.5				
	10-32	40	305	4.2				
	10-41	70	6	17.6				
	11-00	5	250	4.9				
	11-09	10	270	3.3				
	11-15	40	292	13.3				
	11-24	70	349	10.4				
	13-38	5	190	11.1				
	13-45	10	190	3.7				
	13-53	40	326	10.9				
	14-02	60	218	16.8				
	14-12	5	219	8.4	晴	NW	5.7	19.6
14-20	10	165	2.1					
14-28	40	316	7.2					
14-38	60	229	15.6					
15-03	5	201	9.5					
15-11	10	229	4.1					
15-19	40	340	8.8					
15-27	60	246	13.9					
16-27	5	151	10.0	晴	NW	5.7	18.9	
16-34	10	229	9.3					
16-42	40	297	9.9					
16-50	60	218	19.6					

月日	時刻	観測層 (m)	流 向 (degree)	流 速 (m/sec)	天気	風向	風速 (m/sec)	気温 (°C)				
Station 4 (水深74 m)												
11. 19	17-04	5	175	1.1	晴	NW	1.1	17.3				
	17-11	10	182	1.6								
	17-19	40	339	3.7								
	17-27	60	236	13.1								
	18-02	5	146	1.47								
	18-09	10	166	13.6								
	18-25	40	324	6.9								
	18-34	60	188	19.2								
	19-03	5	181	1.40								
	19-12	10	167	1.44								
	19-18	40	331	4.5								
	19-29	60	192	10.3								
	20-20	5	168	10.2					晴	NW	4.2	15.8
	20-26	10	172	23.8								
	20-35	40	193	1.42								
	20-45	60	167	9.2								
	21-02	5	193	26.5					晴	NW	3.4	15.5
	21-12	10	184	16.0								
	21-20	40	—	2.1								
	21-30	60	147	8.2								
	22-25	5	194	18.6					晴	NW	3.4	15.5
	22-32	10	185	16.4								
	22-41	40	168	3.4								
	22-52	60	177	1.42								
23-11	5	207	16.8	晴	NW	5.0	14.3					
23-20	10	195	17.7									
23-29	40	185	2.5									
23-37	60	206	16.2									
11. 20	00-00	5	187	1.42	晴	NW	5.0	14.3				
	00-05	10	195	1.41								
	00-13	40	—	—								
	00-21	60	—	—								
	01-00	5	185	10.1								
	01-07	10	207	9.5								
	01-15	40	140	1.3								
	01-25	60	212	10.3								
	02-18	5	183	7.1					晴	NW	2.0	13.4
	02-26	10	148	4.9								
	02-42	40	25	1.0								
	02-50	60	217	23.8								
	03-07	5	315	5.5					晴	NW	3.8	12.4
	03-14	10	175	4.3								
	03-22	40	—	1.0								
	03-31	60	231	17.3								
04-15	5	88	4.5	晴	NW	3.8	12.4					
04-23	10	155	2.0									
04-32	40	305	1.1									
04-40	60	242	16.9									

月日	時刻	観測層 (m)	流向 (degree)	流速 (m/sec)	天気	風向	流速 (m/sec)	気温 (C)				
11. 20	05-02	5	55	2.4	晴	NW	3.0	10.8				
	05-08	10	123	0.9								
	05-16	40	—	0.9								
	05-35	60	243	16.4								
	06-02	5	85	5.7								
	06-08	10	90	6.6								
	06-14	40	—	2.8								
	06-26	60	253	7.2								
	07-00	5	79	6.5								
	07-08	10	138	5.2								
	07-17	40	—	0.9								
	07-25	60	238	2.1								
	08-13	5	140	9.8					晴	NW	3.0	10.6
	08-20	10	140	10.8								
	08-35	40	285	3.4								
	08-35	60	—	1.1								
	09-04	5	140	13.8								
	09-11	10	70	8.7								
	09-20	40	195	2.1								
	09-28	60	102	5.6								
	10-19	5	173	18.4	晴	NNW	6.1	11.8				
	10-27	10	199	15.7								
	10-36	40	243	7.2								
	10-47	60	147	3.5								
	11-00	5	187	16.0	晴	NNW	2.8	13.5				
	11-06	10	180	14.4								
	11-14	40	235	22.6								
	11-24	60	177	8.2								
	11-54	5	159	13.4								
	12-02	10	178	12.5								
	12-10	40	223	11.2								
	12-21	60	198	11.9								
	13-00	5	171	13.1								
13-07	10	168	9.5									
13-14	40	237	6.7									
13-21	60	193	8.9									
station 5 (水深40m)												
	18-12	5	18	53.7	曇	NE	2.4	16.0				
	18-20	10	4	54.9								
	18-28	20	348	7.9								
	18-34	30	13	46.1								
	19-05	5	15	35.8								
	19-13	10	9	36.4								
	19-22	20	9	43.2								
	19-30	30	8	33.5								

月日	時刻	観測層 (m)	流向 (deg/Sec)	天気	風向	風速 (m/sec)	気温 (°C)
Station 5 (水深40m)							
11. 20	20-14	5	262	曇	NE	3.4	16.2
	20-21	10	185				
	20-28	20	262				
	20-35	30	229				
	21-02	5	223				
	21-10	10	208				
	21-25	20	215				
	21-34	30	203				
	22-11	5	221	曇	NE	4.2	16.2
	22-19	10	211				
	22-27	20	195				
	22-36	30	181				
	23-01	5	215				
	23-09	10	200				
23-26	20	188					
23-34	30	177					
11. 21	00-19	5	214	曇	NE	3.6	15.4
	00-26	10	210				
	00-37	20	189				
	00-47	30	171				
	01-06	5	203				
	01-41	10	204				
	01-50	20	177				
	01-56	30	175				
	02-30	5	212	曇	NE	3.2	14.9
	02-40	10	205				
	02-47	20	197				
	02-56	30	185				
	03-50	5	269				
	03-12	10	356				
	03-44	20	11				
	03-52	30	156				
	04-28	5	31	曇	NE	4.0	15.0
	04-36	10	312				
	04-42	20	19				
	04-51	30	164				
05-07	5	13					
05-15	10	16					
05-23	20	1					
05-21	30	5					
06-15	5	21	曇	ENE	3.8	14.7	
06-22	10	16					
07-03	20	2					
07-11	30	77					

Station 8								
月日	時刻	観測層 (m)	流 向 (degree)	流 速 m/sec	天 氣	風 向	風 速 m/sec	気 温 (°C)
11. 21	07-31	5	20	85.2				
	07-38	10	35	90.7				
	07-46	20	6	90.1				
	07-55	30	11	74.2				
	08-18	5	30	51.8	曇	ENE	6.7	14.9
	08-25	10	3	49.4				
	08-32	20	27	46.0				
	08-39	30	0	46.0				
	09-15	5	247	31.7				
	09-30	10	297	50.6				
	10-33	5	219	56.2	曇	E	6.4	16.3
	10-40	10	200	52.4				
	10-48	20	173	42.9				
	10-55	30	177	38.5				
	11-06	5	211	59.7				
	11-13	10	201	50.1				
	11-20	20	161	36.2				
	11-27	30	161	32.8				
	12-07	5	215	45.2	曇	NE	5.7	17.2
	12-14	10	197	33.8				
	12-21	20	163	32.7				
	12-28	30	155	27.6				
	13-00	5	209	66.8				
	13-05	10	189	62.6				
	13-12	20	175	54.8				
	13-20	30	171	42.2				
	14-30	5	192	21.4	曇	NE	6.5	17.9
	14-38	10	188	16.4				
	14-45	20	151	14.3				
	14-52	30	117	18.6				
	15-03	5	175	18.6				
	15-10	10	162	15.1				
	15-18	20	—	6.8				
	15-25	30	105	11.0				
	16-14	5	0	29.0	曇	NE	4.4	17.6
	16-21	10	21	33.2				
	16-28	20	7	46.6				
	16-36	30	348	64.6				
	17-00	5	18	31.9				
	17-06	10	15	36.0				
	17-13	20	10	44.1				
	17-20	30	341	45.1				
	18-20	5	9	24.8	雨	NE	7.0	17.4
	18-27	10	359	43.2				
	18-36	20	357	51.2				
	18-45	30	359	53.5				

station 5								
月 日	時刻	観測層 (m)	流 向 (degree)	流 速 (cm/sec)	天気	風向	風速 (m/sec)	氣 温 (°C)
11. 21	18-57	5	2	35.6				
	19-17	10	6	54.8				
	19-25	20	12	58.8				
	19-32	30	5	61.7				
station 6 (90 m)								
11. 22	13-23	5	95	15.5				
	13-31	10	86	13.7				
	13-38	40	—	0.6				
	13-47	70	287	11.7				
	14-15	5	142	23.1	晴	NW	6.9	19.2
	14-32	10	32	10.9				
	14-30	40	95	10.7				
	14-38	70	310	12.8				
	15-42	5	145	10.3				
	15-48	10	61	11.4				
	15-55	40	130	5.4				
	16-03	70	294	13.0				
	16-32	5	212	4.4	晴	NW	5.9	18.1
	16-39	10	35	3.2				
	16-46	40	215	2.9				
	16-55	70	287	10.0				
	17-06	5	240	2.5				
	17-15	10	245	1.9				
	17-23	40	235	3.9				
	17-32	70	260	2.9				
	18-01	5	270	8.7	晴	NW	2.4	16.4
	18-08	10	263	9.1				
	18-16	40	287	10.7				
	18-25	70	221	4.2				
	19-09	5	160	9.5				
	19-16	10	285	1.7				
	19-30	40	285	13.2				
	19-31	70	283	9.7				
	20-11	5	5	1.7	晴	NW	4.0	15.6
	20-18	10	—	2.2				
	20-26	40	281	8.2				
	20-37	70	265	8.6				
21-03	5	40	3.6					
21-10	10	45	1.9					
21-18	40	265	2.1					
21-27	70	269	8.3					
22-00	5	101	4.6	晴	NW	3.0	14.9	
22-12	10	72	6.5					
22-20	40	221	3.7					
22-28	70	322	5.5					

station 6								
月日	時刻	観測層 (m)	流向 (degree)	流速 (m/sec)	天気	風向	風速 (m/sec)	気温 (°C)
11. 22	23-07	5	102	6.3				
	23-16	10	93	7.9				
	23-23	40	265	2.4				
	23-31	70	—	0.9				
23	00-00	5	123	9.0	晴	NW	3.2	14.0
	00-07	10	73	9.9				
	00-15	40	235	1.6				
	00-24	70	233	8.0				
	01-02	5	112	16.1				
	01-10	10	85	10.8				
	01-18	40	175	0.9				
	01-26	70	195	2.7				
	02-20	5	76	20.7	晴	NW	3.2	13.4
	02-27	10	81	20.2				
	02-35	40	165	1.6				
	02-43	70	205	19.7				
	03-11	5	86	14.6				
	03-18	10	92	14.2				
	03-26	40	250	15.0				
	03-34	70	294	14.5				
	04-23	5	229	6.8	晴	NNW	3.0	12.5
	04-29	10	39	18.6				
	04-37	40	152	17.5				
	04-45	70	320	8.0				
	05-04	5	161	3.1				
	05-10	10	62	8.1				
	05-18	40	98	1.9				
	05-26	70	—	0.9				
	06-00	5	255	3.1	晴	NNW	3.4	10.8
	06-07	10	265	4.2				
	06-15	40	232	7.2				
	06-24	70	—	0.6				
	07-04	5	269	10.0				
	07-12	10	251	24.5				
	07-20	40	259	19.8				
	07-24	70	24	12.7				
08-30	5	87	14.7	曇	NNW	4.2	10.7	
08-37	10	255	13.2					
08-48	40	247	15.4					
08-57	70	282	12.6					
09-03	5	233	11.3					
09-10	10	335	3.0					
09-18	40	302	10.2					
09-27	70	10	16.3					

station 6												
月日	時刻	観測層 (m)	流 向 (degree)	流 速 (m/sec)	天気	風向	風 速 (sec)	気 温 (C)				
11 23	10-23	5	152	14.9	曇	NNW	6.5	11.8				
	10-32	10	53	20.5								
	10-45	40	339	12.5								
	10-54	70	304	14.2								
	11-10	5	148	10.1								
	11-16	10	35	4.8								
	11-24	40	233	15.6								
	11-32	70	237	18.1								
	12-00	5	89	18.0					曇	NW	5.5	13.6
	12-06	10	191	15.2								
	12-14	40	210	9.0								
	12-22	70	62	13.7								
	13-08	5	179	8.4								
	13-15	10	156	8.6								
	13-21	40	235	2.2								
	13-29	70	205	2.7								

東支那海さば漁況

漁業部 徳 留 陽一郎

鹿兒島港に入港する漁船は、一三年前に比べ今年は急に大型になつている。このことは東支那海の、さば漁業が企業として成り立つ事が、経営者間に認識され、或は他漁業よりは資金の面でも回転が早い等の故からであろう、遠くは千葉、宮城県等のカツオ、サンマ、漁業より閑漁期を利用している状態で、新造或は転業を含め、一覽表に示しているように、総計73隻にのぼつている。そのうち鹿兒島県籍は26隻で半分以上は県外船で占めている。70屯以上の漁船は28隻で、レーダー、ロラン、電気水温計、自動操だ機等の近代設備をなしているのが約10隻ある。この様に、たゞ単に漁場に行き魚探だけで魚を釣るといふのは今日以前の事で漁場を解折解明する意慾が溢れている。例えば海底図を作り、水温、潮目、潮流等の關係を解折総合して魚道を詳細にわたつて解明する努力がなされている。

§ 一般概況

1/1月に入るや前月の水揚量15万貫に比べ81万貫と激増している。一航平均漁獲量は上旬で約6,000メ、中旬で9,000メ、下旬で10,000メとなり、1日5~6万貫の旨が多く、このため魚価は500円(4貫)台を割る日もあつた。

§ 漁 場

昨年1/1月の主漁場は農林漁区492、493区即ち28-30-29-30N 125-00-125-30Eであつたが、今年1/1月上旬は、503、504、513、514区で 遂次南西方へ拡がり、中、下旬は514区に集中の傾向を示し好漁を持続した。昨年同月に比し冷水の張り出しも強い影響も

あつてか。漁場は南下している。

§ 漁 況

11月上旬までは、一籠平均6000M程度で香しくなかつたが、中、下旬になると俄然好漁続きで、浮上群を見る事さえ多く一夜13000Mの例もある。魚深による記録は小さくても、浮上すると大群であり、逆に大きな記録が案外小群で魚体が小さいこともあつた。潮流はNの場合が餌付良好である。

§ 海 況

水温は各船まちまちになりがただが上旬で22.2~22.8℃、中旬で22.0~22.4℃下旬で21.4~22.2℃の水帯で好漁であつた。

鹿児島港入港船隻別現在勢力

船 籍	船 名	吨数	馬力	船 籍	船 名	吨数	馬力
鹿児島	丸二丸			鹿児島	丸一東亞丸	99	310
	丸三二丸	99	340		丸五金比羅丸	64	180
	丸一〇共進丸	61	180		丸幸徳丸	30	100
	丸一三共進丸	99	280		丸盛照丸	99	310
	丸一〇大洋丸	56	200		丸大安丸	60	180
	丸三〇大洋丸	65	210		丸清海丸	60	180
	丸六六丸	87	250		丸大伸丸	130	310
	丸八六丸	87	250		丸榮丸	59	180
	丸三六丸				丸海宝丸	87	250
	丸二〇興洋丸	66	180		丸隆福丸	64	180
	丸六〇豊漁丸	59	180		丸福漁丸	99	330
	丸二〇羽島丸	76	210		丸協洋丸		
	丸三〇旭丸	85	250		丸天竜丸	79	270

船籍	船名	屯數	馬力	船籍	船名	屯數	馬力	
鹿兒島	長福丸	94	310	三重	誠寄丸	176	500	
	松福丸	70	250		快進丸	148	420	
大分	大和丸	92	275	静岡	大勇丸	140	420	
	大豊丸	85	275		東福丸	158	380	
	幸清丸	78	210		豊国丸	89	280	
	豊津丸	96	320		善昌丸	156	380	
	幸栄丸	61	260		翠浦丸	98	250	
	富貴丸	97	300		向宝丸	99	270	
	富栄丸	150	420		伸玉丸	150	300	
愛媛	戒丸	87	250	宮城	東洋丸	120	330	
	住吉丸	113			新七丸			
	朝日丸	117	350		新七丸			
	朝日丸	113	270	宮城	寿々丸			
	春日丸	97	250		寿々丸	97	330	
	勝浦丸	87	250		明神丸	37	120	
	安代丸	78	210	福岡	海運丸	135	410	
	大黒丸	155	370		一休丸	66	180	
	大黒丸	72	220		茨城	平和丸	57	180
	旭丸	96	220	千葉		千潮丸	88	270
	八幡丸	87	280			白井丸	75	270
	南進丸	95	330			三喜丸	59	180
	宮崎	共和丸	64		180	まつ丸	65	210
共和丸		96	300	福岡	白鳳丸	138	400	
富正丸		88	210		東京	大洋丸	196	430
熊本	善幸丸	35	150	徳島	徳島丸			

總 括 表 (鹿 兒 島 港 水 揚)

	漁船	航次數	水揚量數	一航平均漁量	最高漁量	最低漁量
上旬	22	22	141,238	6,420	10,230	2,748
中旬	32	33	308,907	9,360	16,750	5,012
下旬	33	35	360,812	10,310	15,830	1,536
計		90	810,957	9,010		

昭和32年11月上旬

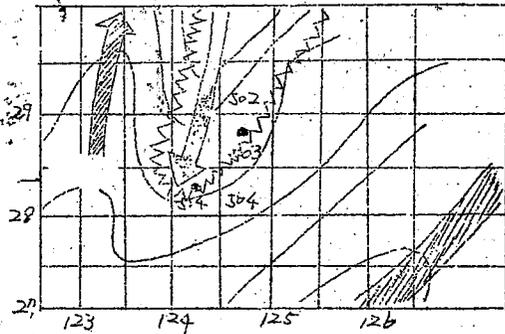
漁場 農林漁区	A	B	$\frac{A}{B}$	C	$\frac{A}{C}$	D	$\frac{A}{D}$
	漁量	操業船數	一隻平均漁量	操業日數	一舟一船當 延平均漁量	延操業人員	一人一舟 當漁量
502	550	2	275	3	133	101	5.4
503	61,050	17	3,591	43	1,420	1,727	35.3
504	14,600	3	4,868	11	1,327	473	30.9
513	12,600	6	2,100	9	1,400	362	3.48
514	27,300	8	3,413	15	1,820	633	43.1
// 月中旬:							
503	3,600	1	3,600	2	1,800	80	45.0
504	4,700	1	4,700	2	2,350	84	56.0
513	14,200	4	3,550	6	2,370	227	62.3
514	24,510	33	7,420	97	2,527	4,158	58.9
524	6,000	1	6,000	2	3,000	90	75.0
// 月下旬:							
493	180	1	180	2	90	78	0.2
502	550	2	275	3	133	101	5.4
503	64,650	18	3,592	45	1,437	1,907	35.7
504	71,000	16	4,438	42	1,590	1,840	38.5
513	26,800	10	2,680	15	1,786	589	45.5
514	33,105	56	5,965	138	2,421	5,931	56.3
515	16,300	3	5,433	4	4,075	124	131.4
524	11,500	3	3,833	5	2,300	188	61.1
526	82,600	16	5,163	32	2,581	1,252	65.9
526	3,000	1	3,000	1	3,000	41	73.1
534	5,500	1	5,500	3	1,833	60	91.7
535	98,350	12	8,196	31	2,173	1,253	73.1

サバハネ釣漁場図

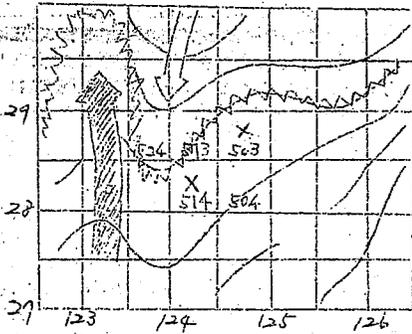
漁獲のあつた農林
漁区番号

△×△ は好漁であつた漁区

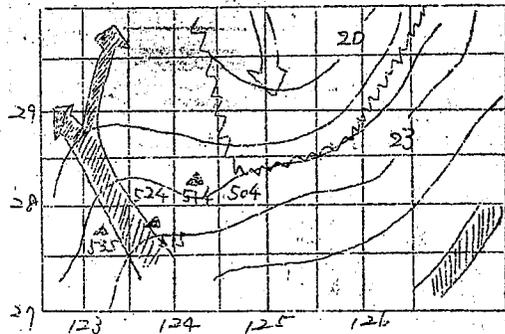
32年11月上旬



32年11月中旬



32年11月下旬



東支那海まぐろ、かじき延縄漁況
(昭和32年11月分)

漁業部

概況

鹿児島入港の当該漁船は10月の18隻に比べ11月は100隻と急増し、漁場も東海全海域に亘り操業が行われているが主たる漁場はさばはね釣漁場周辺の27N~30N 123E~126Eの海域で最も多く操業されて、しろかじき及びまかじきが1%近い漁獲率で漁獲されている。

さめ類の漁獲も前月に比し増加し27N~30N 124E~126Eの海域では3%以上の漁獲率を見ている。一方男女群島西方の漁場でもまかじき(漁獲率1%以上)とさめ類の好漁が見られている。漁体はまかじきでは10貫前後が最も多くしろかじきでは20貫台にモードが見らる。(文責 竹下)

漁況調査表

1613

調査船数 100隻

調査船番号 1281号-1310号

漁場記号	操業回数	操業回数	使用釣数	ピンナガ	メバチ	キハダ	オウギ	アサジキ	クオカジキ	ヨカジキ	バシヨウ	小計	サメ類	計
60	1	1	1.040					0.10				1	63	64
61	2	5	2.562				1	0.08			8	0.10	6.06	6.15
70	3	14	6.830				0.04	0.31		0.31		17	34.03	35.7
71	9	27	3.540				3	1.87	28	1.0		43	36	79
72	4	7	3.432				0.03	0.04	0.41	0.15		0.63	0.53	1.16
80	1	1	460				3	1.87		3.9		2.29	2.97	5.26
81	1	5	2.300				0.02	1.38		0.29		1.69	2.19	3.88
91	1	1	500					3.5		6		4.1	2.2	6.3
100	1	3	1.160					1.02		0.17		1.19	0.64	1.84
140	1	1	1.009						7			7	8	15
327	2	4	1.929					1.52				1.52	1.74	3.26
328	1	1	500					1	6			8	6	14
337	9	48	2.4420					0.04	0.26			0.35	0.26	0.61
338	2	2	990					0.04	0.26			2	1.5	1.7
347	2	2	910					0.40				0.40	3.00	3.40
348	18	97	49.220				1	1.3				1.4	8	22
349	14	29	15.630				0.09	1.12				1.21	0.69	1.90
357	1	1	240					2	1			3	3	6
358	9	18	9.520					0.20	0.10			0.30	0.20	0.50
359	8	11	5.380					6		5		11	31	42
367	1	1	440					0.31		0.26		0.57	1.51	2.18
								1				1	51	52
								0.20				0.20	10.2	10.4
								1.43		1.91	1.7	3.57	2.90	6.47
								0.58		0.78	0.07	1.46	1.19	2.65
								2		5		7	1.7	3.4
								0.20		0.50		0.71	1.72	2.43
								2		4		6	8	11
								0.22		0.44		0.66	0.55	1.21
								2	1.10	3.83		3.95	6.75	12.70
								0.00	0.22	0.57		0.79	1.73	2.53
								4.5		4.9		9.4	5.2	14.6
								0.29		0.31	0.02	0.62	3.34	3.96
										3		3	2	5
										1.25		1.25	0.22	2.04
									9	4.3		5.2	1.64	2.16
								0.09		0.45		0.55	1.72	2.27
								2	1.0	4.0	1	5.3	1.69	2.22
								0.04	0.18	0.74	0.02	0.98	2.12	4.13
								2		1		4	1	5
								0.46		0.23		0.91	0.23	1.28

漁場記号	操業船数	操業回数	使用釣数	ピンナガ	メバチ	キハダ	メカジキ	マカジキ	クロカジキ	シロカジキ	パンヨウ	小計	サメ類	計
368	1	2	1.120				0.09			0.18		3	7	10
378	1	1	580						3		1	3	5	8
379	2	5	2.460			1			10	1	2	14	50	64
397	1	1	480			4		2				6	4	10
398	1	1	480			0.83		0.42				1.25	0.83	2.08
398	1	1	480			1		1				2	3	5
408	1	1	480			0.21		0.21				0.42	0.63	1.04
439	1	2	2.400	3	2	2		2				4	3	7
449	1	6	6.100	0.12	0.08	0.08		3				7	64	71
449	1	6	6.100	0.02	0.66	0.21	0.05	0.11				1.03	0.66	1.71
合計	100	298	156.032	0.00	0.03	0.03	0.01	0.37	0.03	0.44	0.02	0.93	1.95	2.88

○聞慣れなかつた大島の民謡も今では親しみが湧いて来た。盆歌用蘇鉄にも自から心、副、体があつて心なる蘇鉄の高さは、その蘇鉄の円周の倍以上の高さでなければならぬとか、蘇鉄をみる審美眼も今や玄人肌となつた。同僚の家庭を訪ねるときは、先づ庭先に立つて、愛用蘇鉄の幾鉢かを賞賛してからという作法？も今では身についてきた。

何れも年季である。

去る12月1日大半の職員は意義深く大島赴任2周年目を迎えた。とにかく峠を越した感慨であろう。このことは口にし筆にすべきでないようであるが一言触れておきたい。

○去る日、農試分場瀬戸内試験地が廃止され、その職員は官舎が水試分場職員にそっくり移譲され、永らく住宅難から宿直室住したS氏と借家住いのIが移転した。4畳2間に4畳半、2畳それに湯殿つきという昔要寮司令部将校官舎の跡である。序に紹介しておくに現在島山場長の平屋葺邸宅3,000円(家賃)御主事の文化住宅2,000円を除けば分場職員は自宅或は官舎住となり、住宅難に拘る島生活の悩みも一応こゝに解消したことになつた。

○×月×日 名瀬市に出張した。バスの車窓の眼下の景色をめでながめながらきもを冷やすことは相変らずだつたが、復興の息吹を自の当りにみるようであつた。

断がいは切り取られて新しいカーブが出来、くちかけた橋は鉄筋の橋に変わりつゝあつた。自然環境の相違さえ苦にしなければこの島もやがて住み易い島に変わろうとしている。

○本場新築落成記念を控えて島の趣のあるものを出品しようと各係共張切つている。養殖係では何百種という介殻を図鑑と照合しながら和名を記入し、製造では自信をもつて永らく手しおにかけたかつお筋の最後の仕上に余念がない。漁ろうは漁網改善指導、観測船建造と多忙な関合を繰つて

展示用さんご網の補修を始めるといった具合である。

遙かに御盛会を祈る。

- 郵便局のポスターに大島からの年賀状は20日迄に投函されるようにと書いてある。今年も残り僅となった。今年の正月は島の焼酎を飲みながら「あすこの家は一石豚を殺したとか、こちらは2石豚だつたとか」肥つた大きな豚を殺すのを自慢にするという島の人達の話題もききたいものだと思つている。

よき新年をお迎え下さい。

(32, 12, 10, T, I 記)

各 部 日 記

漁業部日誌

- 12月5日 ちどり丸5次瀬魚試験を終え帰港
約320貫 10万円
船長の歯槽濃漏急激に悪化代人なく6次出港見合せる。
- 13日 第三次まぐろ漁業試験のためパラオ近海へ出漁中
照南丸本日をもって操業切揚げ清水向け帰途につく
- 18日 20日開催の展示会を目前に控え総動員体制となる。
- 25日 照南丸清水港水揚約3,800貫 91万円

毎朝部員が市場に出てさばはね釣漁況の調査に当っている。各船1万貫水揚は普通のこととして格別の感想も湧かない有様。本年は大型外来船の回航著しく、中には禰受網を使用しているものもあるらしく、段々ヤカマシイことになつてきお

る。

正月を目前に控えながらサバの相場（1函4貫 300~400円）が一向に持ち直らないのはどうしたことか。

水産庁の曾根課長は「研究制度をめぐる最近の問題」において漁業行政の基本問題を

漁業秩序の不安定

漁業資源の不安定

漁業経営の不安定

の三項目に要約しておられる、魚価の不漁、棒受網の進出等と考え合せ深い感銘を受けた。

暮ともなれば人並に何となく落付かなくなるから技である。

枯れし花盛りの花の八重椿

上野

養殖部メモ

11月6日

湾内のり場、網ひびのつり縄調整、展示会準備（浅海増殖模型、パノラマ式）漁連会長の熱帯魚選搬。北山部長、竹元技師

11月7日

かたくちいわしの資料整理。永山技師、別府市での水産学会へ出席。

11月21日

真珠被抜鱒の調整、さば漁体測定、かたくち資料、沿岸資源資料の整理、のりひびのつり縄調整、展示会の準備等この処全くネコの手も借りたい位の忙がしさだ。

11月27日

対馬暖流報告校正。台湾省政府農林庁漁業管理及技士鄧枝修氏来訪。業務内容説明後、テラビヤの養殖実態を閲覧した。

11月28~12月11日

展示会準備。黒蝶貝内取り作業本年初めてのあさくさのり摘採と抄製。

調査部日記

12月1日~20日

落成式。展示会準備(部員)

1~15日

集約調査資料とりまとめ (別府)

3 / 年度學業報告書編纂 (又木)

水質調査まとめ (九万田)

アオサ全硫酸定量 (弟子丸)

製造部便り

12月1日 展示会準備の開始

展示会の会までにまとまった構想を実行にうつす。展示会は独想。自作であるところに意義をもつので、いよいよ手づければ、次から次へと課題がふくれて、このための残業が連夜となる。

就中水産課加工係の各位が手辨当提げて応援していただいた賜は舌筆につぐせない。

12月2, 3, 4日 うしおソーセージ製造

目前に迫った落成式準備で、生産どころではないのに、需

要面からのはげしい要求のために、オーバーウオークで製造を果たした。

12月13日～17日 乾燥装置の据付工事

株式会社南星工作所が誇る乾燥装置である。

本県では該機械のものは第三号となるけれども、これによって機械乾燥のテキストをウソとつくりたい。

12月18日 C12号らいかい機の据付

機品同様であつた今までのらいかい機は、展示会を契機として株式会社柳屋鉄工所の協力で新型機械と据え替えた。

12月20～22日 復興落成式 水産展示会

12月24日～26日 うしおソーセージ製造

うしおソーセージの駆走態勢に應える製造である。

オーバータイムの作業であつたが少人数で記録的生産成績をあげた。

昭和32年を送る

過ぎんとする昭和32年の成果は、後退か、現態そのままか、又躍進であつたか、今はまだ云える筋合でないから、年末の今まで残つた後味を述べてみたい。

今年一倍いそがしかつた。(何事でも、今の年末がいそがいきまりきつた気持からではなく)ながい12ヶ月のうち、発展段階の仕事は「うしお煮」と「ソーセージ」だけであつたのに、たゞ忙しさで終始している。これは事業と使命が一致してない不合理な計画実行のせいだろう。しかし少数の部員は出願拒絶の「うしお煮」を応用研究に移行する意欲を更にし、ソーセージには多獲魚利用第一義の研究目標を堅持してやまないところをもつて得としたい。

尚、全国的に水揚実績は戦前水準を超過し、鮮魚よりも加工品向が増加しつつある現況からして、大漁食亡に対処する政府の施策に順応する手段として、「うしお煮」と「ソーセー

シ"をとりあげたことは大過ないであろう。

復興という画期的好機に恵まれたお蔭で大半の製造施設に面目を一新する幸を得た昭和32年度は躍進のいしずえとなるものとして忘れられないだろう。

分 場 日 記

- 11月13日 実験室建築打合せ
- 11月19日 かつお節加工試験(本節)2カビ日乾 歩留18.7%
照南丸入港
マベ天然採苗器投入
- 11月21日 県水産課志賀主事来場
柳主事名瀬へ出張
- 11月22日~12月4日 瀬魚一本釣試験
- 11月26日 マベ生殖巣調査
- 11月27日 かつお節加工試験(本節)3カビ日乾 歩留18.5%
- 11月28日 マベ成長度測定
- 12月2日 瀬戸内むろ水揚調査
- 12月2日~10日 貝類、海藻類標本整理作成
- 12月3日~6日 かつお節生産販売状況並びに加工指導のため名瀬市(金結、宝勢丸組合)出張 石神技師 実島技師補
- 12月5日~7日 昭和32年さんご漁獲高集計
- 12月8日 かもめ丸瀬魚一本釣出港(壱見島)
- 12月9日 かつお節加工試験(本節)4カビ日乾 歩留18.2%
瀬戸内むろ水揚調査

編 集 後 記

△タイプ機が指先を布でくるんでの大ふんとう目覚しくようやく「24号」発刊の運びとなりました。編集部員一同「百方に借りある如しー」の気持で迎春。

暮もおし迫つてから本場落成式、展示会、予算査定等々ウソカの如き大軍に攻め立てられて、アツと云う間に土俵を割つた次第。乞御了承。

△鹿大水産学部高橋先生外二名の方から寄せられた長文の「鹿兒島湾潮流観測報告」時節柄興味しんしん。百方里の洋たちどころにして本冊の中に呑み込まれたかの感。玩味熟読を願う。

△額に汗した創立記念水産展示会。

見応えがあつたとの評判に一ヶ月近い準備の苦勞も忘れる。

△漁業部の操業模型、改良漁具、各メーカーの新鋭電機器具、養殖部のモデル漁村と浅海増殖模型、大島分場の貝の標本、製造部の加工機械、各種加工品、調査部の理科学器具装置、漁政課、水産課出品の各種水産統計、考古資料、漁業団体からの操業記録写真等々、多彩な展示品はずいぶん目の薬になつたとはあながち手前味噌ばかりでもない。

△のり業者は困るだろうが、月給取りには有難い暖い正月である。

うしおをすり終えて「今日が新春」というところ。

(編集部)